

～肺がんの早期発見に検診を～

肺がんは、全国のがん死亡数第1位の疾患です。

初期の肺がんは、ほぼ無症状です。病状の進行とともに、咳・痰・血痰・呼吸困難・胸痛などの呼吸器症状があらわれます。これらは、必ずしも肺がん特有のものではないため、他の呼吸器疾患と区別がつかないこともあります。そのため、早期発見・早期治療のためには、年1回の検診が重要です。症状がある場合は速やかに医療機関を受診しましょう。

※胸部エックス線検査及び喫煙者への喀痰細胞診による肺がん検診は、死亡率減少効果があることが認められていますが、100%の精度ではありません。がん検診で必ず見つけられるわけではないこと（偽陰性）、がんがなくても検診の結果が「陽性」となる場合もあること（偽陽性）、がん検診で見つかったがんが「治療しなくても死亡の原因にならない」場合があること（過剰診断）などをよく理解した上で、正しい知識をもってがん検診を受診してください。

検診方法

胸部X線にて2方向からレントゲン撮影をします。また、質問で必要とされた方には喀痰細胞診を行います。

検診結果

<精密検査不要>

検査の結果その時点では「精密検査の必要がない」という意味です。今回異常がなくても定期的に検診を受けましょう。

<要精密検査>

要精密検査とされた方は、呼吸器科のある医療機関で必ず検査を受けましょう。

精密検査の方法

胸部CT検査や気管支鏡検査などを行います。

※精密検査の結果は個人情報保護法の例外事項であり、個人の同意がなくても依頼のあった自治体へ報告することとなっております。

肺がんの原因と予防

肺がんは喫煙との関連が非常に大きいがんです。受動喫煙による肺がん発症の危険性が高まることもわかっています。喫煙はそのほかにも、慢性閉塞性肺疾患、職業的暴露（アスベストなどの有害化学物質）などを発症する危険性を高めると考えられています。

肺がんの最も大きな原因である「喫煙」は、既に何年も吸っている人でも、今からやめることで

肺がんのリスクを減らせることが知られています。自分自身、そして周りにいる大切な人たちを守るために、今日から禁煙を始めましょう。保健センターでは禁煙外来の紹介をはじめ、禁煙相談を随時行なっています。

男女別部位別がん死亡数の順位（2021年）

資料：がんの統計 2023（公益財団法人 がん研究振興財団 発行）

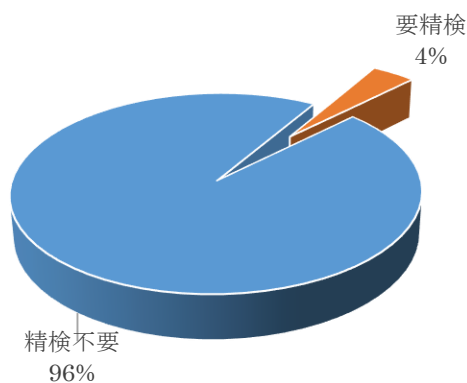
	1位	2位	3位	4位	5位
男	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女	大腸	肺	膵臓	乳房	胃
男女計	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓

※東大和市では令和3年中に43人の方が肺がんで命を落とされています。

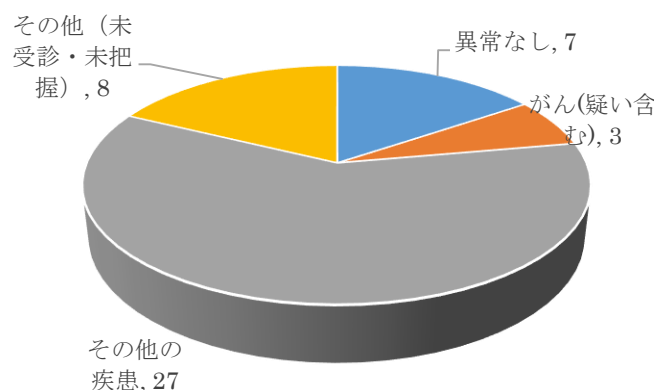
令和4年度東大和市における肺がん検診実施状況

東大和市で肺がん検診を受診した1101人のうち、検診結果で要精密検査となった方は45人でした。精密検査を受診した方の結果は、肺がん（疑い含む）3人、その他の疾患27人、異常なし7人でした。

一次検診受診者 1101人
要精密検査者 45人



要精密検査者45人の内訳



お問合せ：東大和市立保健センター 保健係
電話：042-565-5211（月～金 9時～17時）

